

沖縄カトリック中学高等学校
学校通信

野ばら 3月号

発行
沖縄カトリック中学高等学校
〒901-2215
宜野湾市真栄原3-16-1
TEL098-897-3300
<http://www.catholic-okinawa.ed.jp/>
2017年3月2日(木)



すべてのことに感謝しなさい

校長 夏見隆晴

「サラダ記念日」の歌人俵万智さんの歌に、子の声で神の言葉を聞く夕べ「すべてのことに感謝しなさい」という一首があります。歌には、お子さんの卒園文集に一首リクエストされてとありますから、子供さんはキリスト教系の幼稚園に通われていたのでしょうか。この聖句は、わたしたちの学園でも聖歌としてよく歌われ、子供たちの口から、お家の皆さんにも届いているのではないのでしょうか。メロディも憶えやすく、わたし自身もつい口ずさむということがあります。そこで、今回のテーマは「感謝」です。

思い返せば「子の声で神の言葉を聞く」という体験は、私にもありました。それは、自分自身の耳で聴いたことへの懐かしさと、同時に「神に感謝する」ことへの念が薄れがちなことへの気づきとで、何か新鮮なものを感じました。学園に学ぶ子供たちも、園児の「感謝」、小学生たちの「感謝」、大人のように振る舞いたい中高生の「感謝」の内容はどのように変化し、今我が子から聴いて考えさせられている大人世代も、「感謝」は何に向かってどのようにすべきかを考える必要があります。

ところで、「感謝する」ことの究極は、神に感謝するということです。それは、神さまから頂いているどのようなお恵みに対しても、時にそれが試練の形を取っていても、人間の側からは感謝の形の応答であるべきで、心の内を表現する言葉や行為と言ってもよいでしょう。わたしたち人間は、日々神さまの恵みの中に生きているのですが、このことはあまりにも当然なものと考えられ、「感謝の行為」は勿論のこと、「感謝の言葉」さえも忘れたかのように、日々の生活を送っているというのが実のところではないのでしょうか。

『新約聖書』を読んでみると、イエス様ご自身、父なる神様に感謝して、私たちに模範を示してくださっております。「父よ、これらのことを知恵あるものや賢い者には隠して、幼子のような者にはお示しになりました」(マタイ11:25)とありますが、これは立派な感謝のみ言葉であります。こうして、キリスト教の教えの中には、重要な徳目の一つに「感謝」というものが含まれることになったのです。感謝の心を持たない者は、敬虔な態度に欠けると言われています。神を信じるものは、敬虔な人であるべきでしょう。

カトリック教会で、司祭により毎日捧げられているミサ聖祭には、感謝の祭儀とよばれる部分があります。主なる神が御子イエス・キリスト様をこの世に遣わされて、人間を救ってくださったこと、また今も日々わたしたちに救いの手を差し伸べてくださっていることを記念するものであります。このことを忘れないために、わたしたちの学園では、大きな行事に際して、一同でミサ聖祭を捧げているのです。聖堂という場所は、人間が感謝の心を神さまに向かって捧げるのにふさわしい場所です。そして、人間は賢明にも、いつ何処でも、神さまに感謝を捧げて、礼拝をしてきた歴史を有しているのです。



イチローの哲学

金城 洋樹

最近、“イチローの哲学”という本を読みました。作者の奥村幸治さんは、イチロー選手が2軍の頃からバッティングピッチャーとしてイチロー選手を見守り続け、当時“イチローの恋人”とまで、言われた人物です。その奥村さんが、間近で感じたイチロー選手のプロ意識の凄さや後にリトルリーグの監督での経験談などを紹介した本です。ここで、いくつかのキーワードに沿って僕が感じたことをご紹介します。

1. 頑固さと素直さ

イチロー選手はプロ入りから2年間、ほとんど1軍での活躍はありませんでした。その原因の一つとして、当時の監督、コーチと、バッティングフォームに関する意見の食い違いがあり、アドバイスを聞き入れず、自分の考え方を貫き通したため、使ってもらえなかったそうです。これは、一見するとアウトロー的な格好良さを感じたり、反対にわがままで成功者の美談のように感じることもあるかと思いますが、イチロー選手は小学校から毎日人の何倍の努力を積み重ねてきており、自分自身の長所も短所も知り尽くしているからこそ、成功した例だと思えます。もし、生半可の知識と努力しかしていない人が同じ事をしたのなら、それは単なる我が儘、世間知らずとなり、必ず失敗すると思えます。その証拠に、イチロー選手は自分に合った新しい考え方は素直に取り入れます。よって、バッティングフォームは毎年少しずつ進化しています。

自分自身の考えに誇りを持ち貫くことも大切だと思いますが、この考え方に至るまでどれだけの時を費やし、そこに至るまで積み上げてきた努力がどれほどであったか見直すことを忘れないで欲しいです。アドバイスしていただくと言うことは、その方も成長を願って考えた末の言葉だと思います。その時、新たな自分へ気づき一歩踏み出せる勇気と素直さがあれば人は成長すると思えます。

2. 目的と目標の設定術

最終目標は大きくても構いません。イチロー選手は早い段階でメジャーリーグでの活躍を視野に入れていました。そのためにスモールステップでの目標設定を行い、達成する喜びを感じると同時に、次への活力とします。これは、何もイチロー選手が特別ではなく、多くの方が取り入れている事でしょう。イチロー選手の凄いところは、それに加え、常に目的意識を強く持ち続けていることです。通常何かを始めるときは必ず目的を考え、プラン、実行に移しますが、時間が経つに連れ、目的意識が薄れ、こなすだけになってしまったり、ひどいときにはそもそもの目的とずれることも多々あると思えます。最初の目的を常に持ち続け実践できるプロ意識が大切です。

僕は、イチロー選手のプロ意識の中に、私たちが日頃から大切にすべき考え方、物事を成功に結びつける視点を学びました。最後に、この本の中から

“イチローのプレーは無理でも、イチローの意識なら持つことはできる”



の行事計画

日・曜日	行事計画
3月4日(土)	授業 PUP⑨(中学)
6日(月)	駿台マーク模試(高1・高2)
11日(土)	家庭学習日
13日(月)	午後:武道大会(中3)
14(火)	PUP⑨(高校)
15日(水)	職員会議
18日(土)	修了式 大清掃
19日(日)	春休み(～4月4日(火))
21日(火)	勉強合宿(～25日(土)) 高校生有志 高校後期入試
4月5日(水)	始業式・入学式予行

生徒の活躍

第39回沖縄青少年科学作品展

佳作 2年 伊佐 明香里さん 「太陽熱を調べよう」



第15回日本ジュニア数学オリンピック

地区成績優秀者 3年 佐久本 理央さん

第53回全沖縄青少年読書感想文コンクール

佳作 2年 崎浜 凜々子さん

入選 1年 宮平 清香さん

第55回全沖縄児童生徒書き初め展

金賞 4年 外間 栄美さん
2年 外間 玲美さん
1年 比嘉 このみさん

銀賞 4年 外間 光さん
1年 高里 由貴子さん

銅賞 4年 高山 七海さん

